



京大広報

号外

2006. 4

目次

〈入学式〉

- 学部入学式における総長のことば……………2148
- 大学院入学式における総長のことば……………2151

〈大学の動き〉

- 平成18年度学部入学式……………2154
- 平成18年度大学院入学式……………2155
- 平成18年度入学者選抜学力試験の結果……………2157
- 名誉教授称号授与式……………2158



平成18年度入学式



京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

入学式

学部入学式における総長のことば

平成18年4月7日

総長 尾池和夫

今年、総合人間学部125名、文学部231名、教育学部71名、法学部344名、経済学部268名、理学部312名、医学部医学科104名、医学部保健学科177名、薬学部88名、工学部993名、農学部313名、計3,026名の方々を、この京都大学の学部に迎えることができました。入学おめでとうございます。ご列席の西島安則元総長、長尾真前総長、名誉教授、副学長、各学部長、部局長、教職員とともに、心からお祝い申し上げます。

今年の入試センター試験が行われたとき、新聞記事の見出しに「ゆとり教育一期生が初挑戦」というような表現がありました。皆さんの中にその「ゆとり教育一期生」がおられます。2003年に導入された総合的な学習時間を柱にした新指導要領による学習課程で、高等学校の数学では、積分の計算など約5パーセントが減らされました。学力が落ちたとまで心配する声がありますが、正しく理解して得た知識から新しいものを創造する力が、すなわち学力ですから、知識に触れて皆さんが発展する可能性は無限です。この京都大学は学問を志す皆さんを受け入れて、皆さんの学習を支える場を提供します。この大学に入学した皆さんは、さまざまな工夫をしながら、自学自習で大学での学習に備えていただきたいと思います。入学試験においても、京都大学では今後ともさまざまな工夫をしなければならないと思います。例えば、出題範囲とする科目や単元全体を見渡



して基礎学力の評価を行うことが必要でしょう。今までに皆さんが学習した科目と科目間の関係も重要です。例えば、高い国語力が深い数学的思考を支えるという観点から学力を身につけて行くことが必要だと思います。

また、今日の入学を祝うご家族の皆さまは、今日の入学式を、京都大学の学生となったご本人が、自らの考えに基づいて行動する人となって成長し、自立した人生に一步を踏み出す記念の日と位置づけて、その生き方を静かに見守ってあげてをおすすめします。学生の皆さんには、一人の人として自立することが、国際社会で活躍する人材となるために、まず心がけなければならないことだという認識を持ってほしいと思います。大学で学ぶということは、育ててもらった親に感謝の心を忘れず、しかもその親を超えて、また教を請う師を超えて自律的に成長することにより、国際社会に通用する有能な人材となるということでもあります。早く自立することのできた人が、21世紀の国際社会で高い評価を得ることができ、活躍する場所を与えられるのであります。

皆さんにとって、京都大学は学問をするところです。大学で勉強をすることは実に楽しいことです。今まで知らなかったことを学び、今まで出会わなかったことを体験することほど楽しいことはありません。若きアレクサンドロスが、「もっと易しく学習をすることができないのか」と文句を言ったとき、アレクサンドロスの師アリストテレスが言った短い言葉が知られています。それは、「学問に王道なし」という言葉です。この言葉で論じたアリストテレスは優れた師ですが、この一言で悟ったアレクサンドロスこそ、私は実にみごとな学徒であったと思っています。

このアリストテレスがマケドニア王フィリッポスに招かれて、王子アレクサンドロスの家庭教師となったのは、紀元前342年のことです。そして7年間をすごしました。アレクサンドロスが王位継承した後、紀元前335年に、アリストテレスはアテナイの郊外にリュケイオン(Lykeion)を開設して書物を集めました。これは図書館の先駆的モデルともなったものであります。皆さんが京都大学に入学した今日から、実に2340年ほど前のことでもあります。この京都大学の創立は1897年6月18日、まだその歴史は109年ほどですが、それでもたいへん充実した教育と研究と医療を行っており、学問に励もうとする皆さんの期待に十分応える用意をしています。

京都は日本でもとりわけ長い豊かな歴史に裏付けられた文化を育ててきました。それにも触れていただきたいと思います。一方、学生の間にはできるだけ、京都から外へ出ていくことをすすめます。日本列島の中で旅をするのもよし、外国に留学するのも良いと思います。そのためにはまず言語の学習をし

てほしいと思います。入学試験の問題にあった言語、つまり日本語と英語などにはかなりの知識を持っておられるでしょうが、それをさらに磨いて、いろいろの国の人と話をしてほしいと思います。自国の文化を学び、それを外国の人に外国語で紹介し、他国の文化を学んで帰るということをたくさん経験してほしいと思います。

外国に出かけて、現地の自然・政治・経済・文化・歴史などを学ぶことを目的として、国際交流科目が用意されています。昨年のタイの各地を訪れた参加者のレポートには、先生の姿から現場に身を置いて研究したいと思ったとか、フィールドに肌で触れてフィールドワークの感性を学んだというように感銘を受けた報告が見られます。今年もベトナムの奥地で環境を考え、韓国を訪れ、中国上海の復旦大学を拠点に今の中国を学ぶというようなプログラムが用意される予定です。

後期日程試験を受けて入学式に参加している皆さんは、英語の試験問題を覚えておられることでしょう。その第1問にもあったように、今、英語は国際語としてこれからも使われることでしょう。英語を話す4人のうち3人は英語を母国語としない人であると、試験の問題にありましたが、皆さんはぜひ、それぞれの母国語をまず大切に、母国語による表現の技術をしっかり磨き、さらに国際語としての英語と、最低もう1ヶ国語は学習するようにしてほしいと思います。それが皆さんの卒業を待っている企業や学界など、さまざまな進路で要求される言語力であります。

大学に入学して間もない時期は、無限の可能性と豊かな時間を持っているというのが、人生の先輩た

ちの言っていることです。幅広く奥の深い教養を身につけるのは、専門の研究が軌道に乗ってからでいいと考えていても、仕事を始めるととても忙しくて、そのような時間は取れません。スポーツで体を鍛えるのも、さまざまな文化活動の奥を極めるのも、入学した今が皆さんのチャンスです。十分な時間を持っているという若者の特権を活かして、教養を積み学習に、専門基礎科目の学習に、スポーツ、芸術、文学に全力投球して下さい。その上で、これだけは誰にも負けないという人になる、そういう道を見つけて卒業してほしいと思います。京都大学の中に、そういう道を見つけて究める仕組みがあります。それを自ら見つけ出して活用してほしいと思います。

4月4日から今日まで、時計台の周辺では課外活動に励む先輩たちによって紅崩祭が開催されています。京都大学体育会では、多くの種類のスポーツが行われており、例えば伝統の国立七大学体育大会では、歴史に残る連勝の記録を持っています。七大学体育大会の今年の主管大学は大阪大学ですから、近くで参加しやすい状況です。さらに来年は京都大学が主管となる可能性が高く、ますます参加しやすい絶好の機会となるでしょう。東京大学は京都大学より20年長い歴史を持つ先輩ですが、その小宮山宏総長は、学生時代にアメリカンフットボールで鍛えた逞しい心身で、大学運営においても強力なリーダーシップを発揮しておられ、私はいつもそれを尊敬して拝見し学んでいます。スポーツで鍛えた心身は生涯の財産になりますが、それにも増して、広い分野

に友人を持ち、広い視野で物事を議論しながら、課外活動を通じて得た友人は一生の財産になります。

京都大学に入学した皆さんに、吉田キャンパスの中や、その周辺を歩きながらしっかりと観察して廻ることをおすすめします。北部構内には、グラウンドのすぐ南にある基礎物理学研究所の前に、湯川秀樹博士の胸像があります。日本で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は1907年の生まれ、1965年にノーベル賞を受けた朝永振一郎博士は1906年生まれで、今年から来年はお二人の生誕100年を記念する年です。お二人は物理学に貢献するだけでなく、パグウォッシュ会議に参加し、第1回科学者京都会議を開催して平和運動を推進しました。物理学の功績とともに、平和運動への貢献をたたえることも生誕100年を記念して大切にしたいと思っています。日本のノーベル賞受賞の第1号と第2号の両博士を輩出したのは、京都大学の誇りとするところです。この2006年度を「湯川・朝永生誕百年の記念年度」として、両博士を顕彰すると共に、その事蹟を広く国民に知ってもらうためのいろいろな記念事業を行うことにしています。皆さんもそのために何ができるか、考えて活動に参加していただきたいと思います。

今日入学式を迎えた皆さんの、これからの京都大学での学習と学園生活の充実を願って、何よりも心身の健康に心がけていただくように願って、私のお祝いの言葉といたします。

京都大学入学おめでとうございます。

大学院入学式における総長のことば

平成18年4月7日

総長 尾池和夫

京都大学大学院に入学した修士課程2,219名、専門職学位課程344名、博士(後期)課程973名の皆さん、入学おめでとうございます。ご列席の長尾 真前総長、名誉教授、副学長、部局長、教職員とともに、お慶び申し上げます。

皆さんは学問の道をさらに進み、人類の福祉のために新しい問題を提起し、問題の解決に挑戦し、さまざまな学問領域へさらなる一步を踏み出すために、あるいは今までの学習や研究とは異なる方向へ自らの方向を転換するために、いずれにしても新たな飛躍を求めて、大学院における学習と研究の道へ進まれたのです。入学を心からお祝い申し上げます。

大学院に入ったみなさんは、これからさまざまな分野で、それぞれの学習と研究を行います。しかし、どんな分野であっても、いつも人と地球の共存のことを考えてほしいと、私は思います。その趣旨は、京都大学の基本理念にあるとおりです。

人間が暮らしているのは、固体地球の表面に近い場所です。普段人々が生活する空間は、リソスフェアと呼ばれる固体地球の表層の表面から、たかだか数百メートル上下の範囲です。世界旅行するジェット機は10キロメートルほど上を飛んでいきます。海底深くに潜って調査するのも海面から10キロメートル程度の深さです。地表から上100キロメートルがアトモスフェアです。大気圏と呼ばれます。その少し外を人工衛星が飛び、さらに太陽惑星圏があり、



銀河系を超えて宇宙へと夢が広がっていきます。一方、普段暮らしている地表の下や、海が広がる水圏、つまりハイドロスフェアの下100キロメートルは、リソスフェアと呼ばれる岩石圏です。リソスフェアを通して、地球内部のコアと呼ばれる中心部へ向かって、私たちの夢は宇宙と同じように広がっていきます。

足下の大地から地下へ、あるいは大地から宇宙へ、あらゆる所にこの京都大学の研究者たちの興味の対象があり、あらゆる種類の学問がそれらを、もちろん私たちサル目ヒト科そのものも含めて、研究対象としています。

京都は、古都京都の世界文化遺産で知られています。最近では京都プロトコルで京都を知った人もいます。また物作りの町として訪ねてくる人たちもいます。伝統ある文化を持つと同時に、常に新しい情報を発信したり、新しいものを送り出す町でもあります。京都大学は、その伝統である基礎研究を地道に守りつつ、しかもいつの時代においても地域との連携を大切にしてきました。

東アジアを巡る課題は、今世紀の重要な課題の一

つですが、その課題に挑戦するための基本となる知の蓄積が京都大学にはあります。それを活かしながら、皆さん方にも利用していただきたいと思います。

大学院は、1886年の帝国大学令によってできた機関です。その時には、分科大学と、つまり今の学部ですが、並んで大学を構成する必須の機関とされました。これを卒業すると博士の学位を授与することができるとした旧制大学院です。私立や公立の大学には、実質的に古い歴史を持つ大学がありますが、1918年の大学令によって初めて公立や私立の大学にも大学院が必須の機関とされました。

太平洋戦争の後の学制改革によって、アメリカ合衆国の制度の形式をモデルとして、戦後の新制大学院ができて、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することと、学校教育法に定められた大学院ができました。博士と修士の学位の制度ができました。

2003年に改正された学校教育法では、「大学院は学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする」とあります。

これによって発足した専門職大学院においては、例えば法務修士(専門職)というように学位の標記が決められることになりました。専門職大学院に進む方は、京都大学の豊かな知の蓄積を活用して、単に知識を取得するだけでなく、幅広い教養に裏付けられた確かな視野を持ち、新しい時代に対応する人材として国際社会で活躍してほしいと思います。

学位の名称はそれぞれに定められていますが、学位に付ける専攻の分野名は2004年度で437種類にも

なっているそうです。1994年の181種類に比べて急激に増えたことがわかります。その中で、多く見られるキーワードとしては、環境、文化、国際、情報、経営、政策などのことばで、これらに時代の要請が強いということがわかります。マネジメントやシステム、ビジネス、コミュニケーションなどのカタカナも増えました。ファイバーアメニティー、アントレプレナー、バイオロボティクス、バイオメディカルサイエンス、グローバルビジネスコミュニケーションというような学位の名称も登場しました。

日本の大学の最初は、医、理、工、農、文、法というように一つの音で表される分野から始まり、100年ほどの間にずいぶん数が増えて長い名称が多くなりました。京都大学においても、さまざまな分野が大学院の名称に見られるようになりました。

学問の世界で仕事をする研究者にとっても、現場を踏んで事実を観察し、そこから得た成果を人類の福祉のために活かすことが基本として大切です。メディアの世界で仕事をするジャーナリストにとっても、それはまったく同じです。京都大学には特徴の一つにフィールドワークを研究の手法の中心に置く分野があります。このフィールドワークを活かす分野であっても、フィールドワークの現場は、これからは地球の表面近くに限らず、宇宙に向かって、あるいは地球の中心へ向かって広がっていきます。例えば、小山勝二他「見えないもので宇宙を観る」(学術選書、007、京都大学出版会)によれば、宇宙を見る眼は、可視光のみならず、あらゆる手段が活用されることになりました。赤外線で、温度を知る、遠くを見る、昔を観る、X線で観る、星の誕生、星の最後を見る、超新星、ブラックホールを見る、重

力波を検出する、また、ブラックホール、ダークマター、ビッグバン、ダークエネルギーの問題を考え、未知の問題に挑む、などと言われています。

現場を大切にしているジャーナリストのことを考えるために、私が最近読んだ本は、江川紹子さんの「大火砕流に消ゆ、雲仙普賢岳・報道陣20名の死が遺したもの」(新風舎文庫)です。普賢岳の起こす大規模の火砕流は、私もすぐ近くで最大規模のものを観察したのですが、初期に発生した大規模な火砕流による、研究者や報道に従事する人たちの仕事の仕方の問題が提起されました。映像による報道を仕事にする人たちの現場についての考え方を学ぶために、この本を読みました。江川さんはその本で、「誰に指示されたわけでもない。スクープを狙ったわけでもない。目の前で大きな現象が起きていれば、カメラマンとしては当然現場に足が向く。」と述べ、「現場に立つ者の判断力、警戒心、そして取材対象に対する的確な情報を収集し、把握することの大切さを彼らは身をもって示した、と思うのだ。そして彼らは、最後まで現場にこだわり、報道する者としての生を最後まで生ききった。そのことを忘れてはなら

ない。」としています。

また、自然災害にかかわる研究者としては、「この長期災害では、いつになったら終わるのか分からない、という点が、地元の人々にとっては一番苦しかったようだ。その思いをどうやったら言葉にできるのか……。」と述べられている点に、私も研究者として注目しました。研究はおもしろいから続けるのですが、人々が何を知りたいと思っているかを知っていて研究を進めることも、大学院で研究する場合に大切なことの一つです。研究者として論文を発表するだけでなく、その研究成果をもとに、自らも社会貢献の一端を担うのだということに心掛けてほしいと思います。

大学院で、皆さんはさらに学習を深め、研究成果をあげることを目標とされます。常に広い視野を持ち続け、国際社会に貢献する人材であることを心がけていただきたいと思います。皆さんの学習と研究が実り、それが京都大学の知の蓄積ともなり、皆さんが21世紀の国際社会の中で活躍される原動力ともなることを願って、私のお祝いの言葉といたします。

入学おめでとうございます。

大学の動き

平成18年度学部入学式

平成18年度学部入学式が、4月7日(金)午前10時より、西島安則元総長、長尾 真前総長、名誉教授はじめ各部局長等の出席のもとに、本学総合体育館にて挙行された。

京都大学交響楽団による式典曲奏楽、京都大学合唱団による学歌斉唱に続き、「総長のことば」があり、午前10時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次のとおりである。

学部	入試区分	一般入試 (前期)	一般入試 (後期)	外国学校 出身者選抜	外国人留学生 特別選抜	編入学	再入学	学士入学	総計
総合人間学部		108人	15人	—人	1人	—人	1人	—人	125人
文学部		193	32	—	2	—	—	4	231
教育学部		40	22	—	—	9	—	—	71
法学部		303	25	7	—	9	—	—	344
経済学部		210	30	11	8	9	—	—	268
理学部		282	30	—	—	—	—	—	312
医学部		214	45	—	—	22	—	—	281
薬学部		76	11	—	1	—	—	—	88
工学部		858	100	—	12	22	—	1	993
農学部		241	69	—	2	—	1	—	313
総計		2,525	379	18	26	71	2	5	3,026



はじめての学歌斉唱

平成18年度大学院入学式

平成18年度大学院入学式が、4月7日(金)午後3時より、長尾 真前総長、名誉教授はじめ各部署局長等の出席のもと、本学総合体育館にて挙行された。

京都大学交響楽団による式典曲奏楽、京都大学合

唱団による学歌斉唱に続き、「総長のことば」があり、午後3時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次のとおりである。

区分 研究科	修士課程				再入学	合計
	入学	外国人留学生				
		国費	私費			
文学研究科	91 ^人	3 ^人	7 ^人	- ^人		101 ^人
教育学研究科	43	-	-	-		43
法学研究科	8	2	6	-		16
経済学研究科	25	6	8	-		39
理学研究科	318	2	2	-		322
医学研究科	19	1	1	-		21
薬学研究科	80	2	2	-		84
工学研究科	659	6	22	-		687
農学研究科	302	4	5	-		311
人間・環境学研究科	147	5	12	-		164
エネルギー科学研究科	114	-	2	-		116
情報学研究科	170	2	14	-		186
生命科学研究科	98	-	-	-		98
地球環境学舎	27	-	4	-		31
合計	2,101	33	85	0		2,219

区分 研究科	専門職学位課程			合計
	入学	外国人留学生		
		国費	私費	
法学研究科	202 ^人	- ^人	- ^人	202 ^人
医学研究科	32	-	-	32
公共政策教育部	41	-	5	46
経営管理教育部	55	-	9	64
合計	330	0	14	344

区分 研究科	博士後期課程														
	編入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		転入学	外国人留学生		小計	進学	外国人留学生		小計	合計
		国費	私費		国費	私費		国費	私費			国費	私費		
文学研究科	9 ^人	- ^人	3 ^人	1 ^人	- ^人	13 ^人	41 ^人	4 ^人	4 ^人	49 ^人	62 ^人				
教育学研究科	8	-	-	-	-	-	-	-	-	8	21	-	1	22	30
法学研究科	2	-	-	1	-	1	-	-	-	4	12	-	4	16	20
経済学研究科	3	2	3	-	-	-	-	-	-	8	22	3	7	32	40
理学研究科	17	5	2	-	-	-	-	-	-	24	131	3	-	134	158
医学研究科	5	1	-	-	-	-	-	-	-	6	10	-	-	10	16
薬学研究科	6	1	1	-	-	-	1	-	1	10	28	2	1	31	41
工学研究科	56	7	8	-	-	-	-	-	-	71	59	2	2	63	134
農学研究科	6	2	-	-	-	-	-	-	-	8	62	1	5	68	76
人間・環境学研究科	8	3	1	-	-	-	-	-	-	12	59	2	6	67	79
エネルギー科学研究科	7	-	1	-	-	-	-	-	-	8	7	-	-	7	15
情報学研究科	17	2	3	-	-	-	1	-	-	23	25	-	1	26	49
生命科学研究科	8	-	-	-	-	-	-	-	-	8	34	2	-	36	44
地球環境学舎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	0	1
合計	153	23	22	2	0	1	2	0	1	204	511	19	31	561	765

区分 研究科	博士課程				
	入学	外国人留学生		転入学	合計
		国費	私費		
医学研究科	156 ^人	4 ^人	7 ^人	3 ^人	170 ^人

区分 研究科	一貫制博士課程								
	入学	外国人留学生		小計	編入学	外国人留学生		小計	合計
		国費	私費			国費	私費		
アジア・アフリカ 地域研究研究科	23 ^人	1 ^人	1 ^人	25 ^人	5 ^人	1 ^人	0 ^人	6 ^人	31 ^人

区分 研究科(学舎)	博士課程								
	編入学	外国人留学生		小計	進学	外国人留学生		小計	合計
		国費	私費			国費	私費		
地球環境学舎	1 ^人	1 ^人	0 ^人	2 ^人	5 ^人	0 ^人	0 ^人	5 ^人	7 ^人



平成18年度入学者選抜学力試験の結果

平成18年度入学者選抜学力試験(第2次学力検査)の前期日程試験は2月25日(土)・26日(日)および27日(月)に、後期日程試験は3月13日(月)・14日(火)に実施した。

学部別の受験者数、合格者数および入学者数等は次のとおりである。

学 部	募集人員 (A)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	第1段階 選抜合格者数	受験者数 (C)	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率 (%)	合格者数	辞退者数	追加合 格者数	入学者数
総合人間学部	120 ^人											
前期												
文系	55	198	3.6	194	192	3.5	2	1.0	57	-	-	123
理系	50	180	3.6	178	175	3.5	3	1.7	51			
後期	15	257	17.1	240	156	10.4	84	35.0	15			
文 学 部	220											
前期	190	577	3.0	573	567	3.0	6	1.0	194	1	-	225
後期	30	385	12.8	300	150	5.0	150	50.0	32			
教 育 学 部	60											
前期	40	164	4.1	163	158	4.0	5	3.1	41	1	-	62
後期	20	174	8.7	152	92	4.6	60	39.5	22			
法 学 部	310											
前期	300	886	3.0	882	871	2.9	11	1.2	303	-	-	328
後期	10	419	41.9	290	106	10.6	184	63.4	25			
経 済 学 部	230											
前期												
一般	160	503	3.1	500	493	3.1	7	1.4	160	-	-	240
論文	50	281	5.6	250	241	4.8	9	3.6	50			
後期	20	704	35.2	570	346	17.3	224	39.3	30			
理 学 部	311											
前期	280	857	3.1	838	826	3.0	12	1.4	283	2	-	312
後期	31	878	28.3	865	562	18.1	303	35.0	31			
医 学 部	243											
前期	213	618	2.9	550	540	2.5	10	1.8	225	17	-	259
後期	30	338	11.3	292	177	5.9	115	39.4	51			
薬 学 部	80											
前期	70	184	2.6	183	178	2.5	5	2.7	76	-	-	87
後期	10	131	13.1	131	74	7.4	57	43.5	11			
工 学 部	955											
前期	857	2,224	2.6	2,218	2,197	2.6	21	0.9	860	3	-	958
後期	98	988	10.1	832	351	3.6	481	57.8	101			
農 学 部	300											
前期	233	581	2.5	578	572	2.5	6	1.0	243	5	-	310
後期	67	719	10.7	718	431	6.4	287	40.0	72			
小 計												
前期	2,498	7,253	2.9	7,107	7,010	2.8	97	1.4	2,543			
後期	331	4,993	15.1	4,390	2,445	7.4	1,945	44.3	390			
計	2,829	12,246	4.3	11,497	9,455	3.3	2,042	17.8	2,933	29	0	2,904

(注) 受験者数・欠席率は最終教科のものである。

[外国学校出身者のための選考の実施結果(外数)]

学 部	募集人員 (A)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	第1次 選考合格者数	受験者数 (C)	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率 (%)	合格者数	辞退者数	入学者数
法 学 部	20 ^{人(以内)}	41 ^人	2.1	23 ^人	13 ^人	0.7	10 ^人	43.5 [%]	7 ^人	0 ^人	7 ^人
経 済 学 部	10	26	2.6	16	13	1.3	3	18.8	11	0	11

名誉教授称号授与式

4月5日(水)午前11時から名誉教授称号授与式が、時計台記念館において挙行された。

授与式は、副学長、部局長等の出席のもとに行われ、称号授与のあと「総長あいさつ」があり、午前11時50分終了した。

称号を授与された方は、次の57名である。



(氏名)	(推薦部局)	(氏名)	(推薦部局)
松山奉史	(原子炉実験所)	今西英器	(理学研究科)
伊東隆夫	(生存圏研究所)	吉川榮和	(エネルギー科学研究科)
梶本興亜	(理学研究科)	米井脩治	(理学研究科)
庄垣内正弘	(文学研究科)	長村光造	(工学研究科)
櫻谷哲夫	(農学研究科)	芹澤昭示	(工学研究科)
竹本修三	(理学研究科)	佐和隆光	(経済研究所)
野淵正	(農学研究科)	林哲介	(高等教育研究開発推進センター)
山田耕作	(理学研究科)	松本紘	(生存圏研究所)
瀬戸口烈司	(理学研究科)	西牧研壯	(原子炉実験所)
小松紘一	(化学研究所)	松本孝芳	(農学研究科)
中村紘一	(文学研究科)	笈田昭	(農学研究科)
古川顯	(経済学研究科)	糴谷信三	(化学研究所)
塩津正博	(エネルギー科学研究科)	本山美彦	(経済学研究科)
舞原俊憲	(理学研究科)	堀内昶	(理学研究科)
木田秀次	(理学研究科)	山品元	(工学研究科)
岡田篤正	(理学研究科)	光藤武明	(工学研究科)
池内健	(再生医科学研究所)	内井惣七	(文学研究科)
河合明彦	(薬学研究科)	茂原信生	(霊長類研究所)
堀江武	(農学研究科)	青山吉隆	(工学研究科)
佐々木義之	(農学研究科)	五十棲泰人	(放射性同位元素総合センター)
水崎隆雄	(理学研究科)	山田勇	(東南アジア研究所)
齋藤敏明	(工学研究科)	黒河宏企	(理学研究科)
山内淳	(理学研究科)	西脇常記	(人間・環境学研究科)
宇佐美齊	(人文科学研究科)	山内正敏	(理学研究科)
木村雅昭	(法学研究科)	荒木光彦	(工学研究科)
速水正憲	(ウイルス研究所)	岩城見一	(文学研究科)
森明雄	(霊長類研究所)	關谷次郎	(農学研究科)
谷垣昌敬	(国際融合創造センター)	増田富士雄	(理学研究科)
井川満	(理学研究科)		